

令和元年度 推薦啓発ビデオ一覧

多可町隣保館(ふれあいセンター)

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
高齢者	私たちの声が聴こえますか ～社会福祉施設における人権～ (2008)	30分	近年、高齢化が進行する中で、社会福祉施設等の入所者に対する身体的・心理的虐待等が表面化し、大きな社会問題となっています。こうした施設内における虐待を根絶していくためには、施設職員の人権意識を高めていくことが一層必要になっています。本作品は、ドラマと共に、施設職員の人権意識を高める取組として実際に施設内で行われた人権啓発活動の紹介など、「どんな行為が入所者の人権を侵害する行為に当たるのか」ということが自然に理解されるような構成になっており、施設の運営に人権の観点が不可欠であることを強調しています。
	ここから歩き始める (2015)	34分	日本における平均寿命の大幅な伸びや少子化などを背景として、社会の高齢化が急速に進んでいます。それに伴い、認知症高齢者も大きな社会問題となっています。高齢者を家族や地域でどのように支えていくか、また、高齢者自身の意欲や能力をどのように生かしていくかを考えることは、これからの私たちの大きな課題です。認知症の親を持つ主人公とその家族の中で繰り広げられる介護をめぐる葛藤ときずなの紡ぎなおしを描くことで、高齢者が人間として誇りを持って生きていく上で大切なことについて、家族や地域の視点を通して考えるきっかけとなるドラマ教材です。
同和問題	同和問題と人権 (2008)	28分	会社でセクハラなどの人権問題を担当する友一は、両親の体験を聞き、部落差別、同和問題について知識を深めていく…。同和問題について考えるアニメーション作品です。
	部落解放運動の歩み (2012)	60分	三部構成(各20分) 戦前編…水平社の運動 戦後編(1)…部落解放運動の再出発 戦後編(2)…部落解放に向けた新たなステージ
	「部落の心を伝えたい」 ビデオシリーズ第21巻 結婚差別400事例 ～弘瀬喜代～ (2013)	28分	「通婚率90%以上」、そんな統計から、部落差別は解消したかのような誤った認識が広がっている。数字の奥にある厳しく悲しい現実を知る弘瀬喜代さんの講演は激しく心を打つ。400事例に学ぶ、結婚差別の相談に奔走する中でつかんだ人間の真実。それは応援する人が必ず現れること。そして、人は変わる。他人事ではなく、自らの問題として考えてほしい。弘瀬さんの切実な願いは若い世代にゆっくり着実にしみこんでいく。
	「部落の心を伝えたい」 ビデオシリーズ第31巻 ありのまま生きる ～坂田愛梨・瑠梨～ (2017)	24分	寝た子を起こす 「寝た子を起こすな」で始まり「寝た子を起こす」で終わる部落問題。それを間近に見聞きしてきた姉妹は、「寝た子を起こす」活動を無理せず軽やかに積み上げる。母から娘へ、そして子へ 母から受け継ぐ「ありのまま生きる」姿が幼い頃から姉妹の自尊感情を育んだ。たくさんの仲間をつくり、つながりを結び、プラスの出会いを重ねていく。幼子にも部落にルーツをもつ「私」を伝えていく。
	「部落の心を伝えたい」 ビデオシリーズ番外編 「恥ずかしい」のはどちらだ 差別する側、される側 ～江嶋修作～ (2018)	27分	稚拙な同和教育を批判するときに誰もが一度は口にするタテマエ・タテジワ・タニンゴト。創唱したのは、社会学者の江嶋修作さんです。40年に亘り同和教育の変革を訴え続け、意識革命の端緒を開くとともに、多くの青年たちも育てた。今、江嶋さんが提唱するのは「人権 テイク・ルート(根を張る)」。各地に「人権の根を張って生きる」個人をつなぐ取り組みです。部落差別解消推進法の施行後の新しい解放教育とは？
	ともに生きる私たちの未来～部落差別解消推進法がめざすもの～ (2017)	38分	この作品では部落差別解消推進法ができた背景の現実社会とネット上で起きている新たな差別実態を明らかにする一方で、被差別部落にルーツを持つことに誇りと自信を持って活動する若者たちを紹介しています。この2つの視点から、ネット社会の中で新たな局面を迎えている「部落問題」について考え、「ともに生きる社会」をどう実現していくのか、私たち一人ひとりに問いかけていきます。

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
同和問題	あなたに伝えたいこと ～インターネット時代における同和問題～ (2014)	36分	同和問題は、様々な対策の結果、生活環境などハード面の改善は進みましたが、結婚差別や身元調査など意識の面では依然として課題が残されています。また、インターネットには差別的な書き込みやネット依存など陰の部分があります。この物語の主人公は、ごく普通の若い女性です。彼女は、自分の祖母や母が同和問題でつらい思いをしてきたことを知ります。彼女の結婚話を中心に、恋人や友人、家族などとの関わりを通して、この問題が決して他人事ではないこと、ネット上の情報だけではなく実際に人とふれあう中で、お互いを正しく知り合うことが同和問題やすべての差別をなくしていくために重要であることを、明るい希望とともに伝えます。
	・同和問題～過去からの証言、未来への提言 ・同和問題 未来に向けて (2014)	61分 19分	この作品は、我が国固有の人権問題である同和問題に焦点を当て、人権教育・啓発担当者が学ぶべき同和問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を分かりやすく簡潔にまとめた「同和問題 ～過去からの証言、未来への提言～」(61分)と一般市民を対象とした、「同和問題 未来に向けて」(19分)の2つの映像作品から成り立っています。
	シリーズ 映像でみる人権の歴史 (2014) 第1巻 東山文化を支えた「差別された人々」 第2巻 江戸時代の身分制度と差別された人々	1巻 16分 2巻 15分	【第1巻】世界遺産である銀閣寺や龍安寺の庭園などをつくったのは、実は「河原者」であり、そういった偉大な芸術家であった河原者が、なぜ差別されたのでしょうか。また、差別されてきた河原者を、その芸術面の力で率直に評価し重用した将軍足利義政など、山水河原者に活躍の場を与えた人々の存在も描き、こうした差別しなかった人たちの姿も強調し、世界に誇る文化遺産は、差別された人々と差別することなく正しく評価した人たちによって築かれたことを、学ぶ教材です。 【第2巻】最近の教科書では、「士農工商」という表現がなくなり、部落は社会の下ではなく、「ほかに」「別に」と表す教科書が増えています。この作品では、身分制度は江戸時代に突然つくられたわけではなく、中世に始まった身分が固定され、江戸時代に「制度化」されたことを、分かりやすく解説しました。また、部落差別の学習を通じて、「イジメ」の問題を考えることや、「非人」の存在を現在の「ホームレスの方々の人権」と関連させ発展的に学習できる工夫を加え、江戸時代の身分制度が決して現在の社会問題と無関係ではないことを示唆しています。
	映像でみる人権の歴史 (2015) 第3巻 近代医学の基礎を築いた人々 第4巻 明治維新と賤民廃止令	3巻 17分 4巻 18分	【第3巻】江戸時代中期、山脇東洋が日本初の医学解剖を実施し、その後杉田玄白は、『ターヘル・アナトミア』を手に入れた人体解剖を見学しました。そのとき実際に解剖して見せたのは差別されてきた人々でした。第3巻では、大切な命と向き合い、生きてきた人々の姿が描かれています。 【第4巻】幕末、長州藩では差別された人々が「維新団」として活躍し江戸幕府が倒されました。しかし、成立した明治政府が出した「布告」は税を取ることが真の目的であり、加えて壬申戸籍の差別的な記載を許可したことなどで、差別はなくなりませんでした。最新の研究を基に公文書を読み解き、部落差別が近代になっても存続した構造を丁寧に描いています。
	映像でみる人権の歴史 (2017) 第5巻 渋染一揆を闘いぬいた人々 第6巻 日本国憲法と部落差別	5巻 18分 6巻 17分	【第5巻】幕末、岡山藩では、身分差別を徹底するため、被差別身分の人々に、「渋染か藍染以外の着物の着用を禁止する」という厳しい御触れを出します。この「差別」を認めるわけにはいかないと藩内53ヶ村の人々は、のちに「渋染一揆」と呼ばれる大規模な抵抗運動を起こしました。人々は、整然とした闘いでこの「御触書き」を撤回させました。人としての尊厳をかけ、知恵と力を合わせて戦った人々から、いま学ぶべきことは何かを問いかけます。 【第6巻】戦後、憲法が制定された経緯を検証し、男女同権による民主選挙によって選出された国会議員たちが、主体的に憲法制定に取り組んだことを描きます。さらに、人権尊重の精神がどのようにして憲法に書き込まれたか、とくに第14条の条文に「部落差別の禁止」が明確に記載されたことも明らかにしました。だれひとりとして「差別されない」と明記された「日本国憲法」こそが、真の「解放令」であり、「差別を黙って見過ごしてはならない」ことを、いま改めて憲法の意義とともに問いかけます。

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
同和問題	「部落差別解消推進法」が施行！～どんな法律？なぜできたの？～ (2017)	55分	平成29年8月「多可町民の集い」で近畿大学人権問題研究所教授の奥田均さんから「部落差別解消推進法」の制定に至るまでの経緯や背景、そして、この法律から私たちが学ぶべきこと、また、今後この法律を活用して部落差別を解消するために具体的にどう取り組んでいくべきか、などについてわかりやすく解説していただきました。
	そんなの気にしない～同和問題～ (2016)	17分	この作品は、二人の友だち同士が主人公です。タイトルの「そんなの気にしない」は、親友に自分が同和地区出身だということを告白したときに返ってきた言葉です。告白したほうは、相手にもっと知って欲しかった。告白されたほうは相手が、そのままの相手でも何も変わらないことを伝えたかった。しかし、その一言がきっかけで二人はすれ違っていきます。「気にしない」という言葉の底には、そのことをマイナスに見る意識があるのかもしれない。私たちが普段なにげなく使う言葉や態度のなかには、相手を傷つけるものがあるかもしれない。そして、壁を乗り越えるのもまた、相手を信じる力だということを伝えます。
人権全般 その他	あの空の向こうに (2009)	38分	私たちがなにげなく使っているケータイやインターネットがある日突然「凶器」に変わってしまう。ケータイやインターネットによる人権侵害は、いつ、だれの身に起きても不思議ではない。だれもが被害者に、そして加害者にもなり得る。本当の意味での心のつながりとは？。お互いに「思い」を交わし、心の寄り添うようなコミュニケーションを図ることの大切さを訴える。
	すべての人々の幸せを願って (2015)	35分	世界には、性別や人種、肌の色の異なる人々、大人や子ども、障がいの有無など、一人ひとりが違いを持つ、たくさんの人たちが暮らしています。すべての人々が幸せに暮らせるように、私たち一人ひとりが相手の違いを認めつつ、同じ一人の人間として、相互に尊重し合うことの大切さを一緒に考えていきましょう。
	わたしたちが伝えたい、大切なこと (2017)	31分	全国中学生人権作文コンテスト入賞作品から(1)外国人問題、(2)障がい者スポーツ、(3)障がい者理解を題材とする3作品をアニメ映像化し、人権尊重思想の普及高揚と同時に同コンテストの周知を行うことを目的としています。
	君が、いるから (2018)	分	テーマは「子ども・若者の人権」です。子どもや若者は社会の希望であり、未来をつくる存在です。しかし、現実を顧みると、子どもや若者が被害者や加害者になる悲痛な事件が後を絶ちません。今この時も虐待やいじめなどにより人権を侵害され苦しんでいる子どもや若者が「すぐ隣り」にいることに、私たちは気づかなければなりません。 この作品は、母親からの心理的虐待に悩む若者が主人公です。生き方を制限され、自分が愛されていると感ずることができず自己肯定感の低い彼女も、コンビニエンスストアでの出来事をきっかけに少しずつ変わっていきます。彼女は、そこで出会う人々とのふれあいを通して、新たな価値観に気づいていきます。ともに心を通わせ、信頼することの先に「希望」と「幸せ」があることを奏の成長を通して描きます。
	桃香の自由帳 (2011)	36分	家族形態の変化や一人暮らし世帯の増加が進むなか、人々の地域などへの意識や関わり方が大きく変わり、互いにふれあい、支え合うことが少なくなっています。そのため、同じ地域に暮らしていても、名前さえ知らなかったり相手のことを誤解して排除したりするなど、私たちは気づかないうちに「人とのつながり」を自ら断ってしまうことがあります。このドラマは、どの地域でも起こりうる出来事に光を当てて、日常の何気ない言動を振り返ることで、現在を生きる私たちが見失いつつある、人と人が寄り添い、共に生きる温かな世界とは何かについて語りかけます。東日本大震災後、改めて見つめ直されている「人と人とのきずな」。私たち一人ひとりが地域社会を担う一員として、助け合い、支え合って生きる共生社会を創造していくためのドラマ教材です。
ほんとの空 (2012)	36分	高齢者や外国人に対する排除、不利益な扱い、同和問題や原発事故に伴う風評被害の問題、これら多くの人権課題に共通する根っこの部分は、私たちの誤った考え方や思い込み、偏見という「意識」です。 誰もが他者の排除や差別がよくないことは理解しています。その一方で、私たちは自分の身近な人に関わる出来事には敏感に反応するけれど、それ以外のことには他人事のように感じたりします。また、私たちは、自分や家族の生活を守るために、あるいは誤解や偏見に気づかずに、他者を排除したり、傷つけたりしがちです。誤解や偏見に気づき人と深く向き合うこと、他者の気持ちを我がこととして思うこと。全ての人権課題を自分に関わることとしてとらえ、日常の行動につなげてもらうための教材です。	

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
人権全般 その他	ヒーロー (2013)	34分	社会から孤立している人が増えてきて、孤独死などが大きな社会問題となっています。家族や地域、職場のつながりの希薄化による「無縁社会」と呼ばれる社会状況に対し、私たちに何ができるでしょうか。 「無縁社会」の中で、地域で起こる身近な人権問題に対し、傍観者としてではなく、主体的に行動することで、新たな地域のつながりを結んでいく大切さを実感してもらうためのドラマ教材です。
	あした 咲く (2017)	36分	女性が輝く社会の実現に向けて様々な取り組みが進められてきました。しかし、現状は、職場や地域における女性の能力発揮のための環境整備や意識改革は必ずしも十分ではありません。また、ドメスティック・バイオレンスやハラスメントなどの女性に対する人権侵害も生じています。 この作品には、それぞれの立場ゆえの悩みや葛藤を抱えている生き方の異なる姉妹が登場し、姉妹の対立や、父との対話、そして、地域の人々とのふれあいを通して、別の視点や価値観に気づきます。自分で自分の生き方を選択し、すべての人が輝ける社会、その実現をめざすきっかけとなる教材です。
	家庭の中の人権 カラフル (2014)	31分	「人権問題」というと、難解で、政治や法律や一部の組織に関わる人だけに関係があるものだと思われがちです。しかし、「人権」の問題は、「人間」の問題」。私たち一人ひとりが生きていく日々の中に存在します。気づかずにいると、知らず知らずのうちに他者の人権を侵害してしまうこともあります。そして人権に対する意識の基盤は、家庭の中で育まれていきます。 このビデオでは、人生の巣立ちの時を迎えた子どもたちと両親との会話を通じて、家庭の中にある人権課題を取り上げました。一人ひとりが「人権」に対する意識と知識を高め、家庭内で話し合うきっかけとしてお役立てください。
	あなたがあなたらしく生きるために～性的マイノリティと人権 (2015)	30分	性・セクシュアリティはとても多様です。しかし、それをしっかり理解している人はごくわずかでしょう。そのため、性的マイノリティの多くが、生きづらさを感じています。誰もがありのままを受け入れられ自分らしく生きたいと望んでいます。そんな社会を実現させるためには、まず相手を正しく理解し、偏見や差別をなくす必要があります。この教材は、性的マイノリティについて人権の視点で理解を深めるのがねらいです。
	外国人と人権～違いを認め、共に生きる～ (2017)	33分	外国人に関する人権問題をドラマや解説で明らかにし、多様性を認め、人が人を大切にできる人権尊重の社会をつくりあげるために何ができるかを考える教材です。外国人に対する偏見や差別をなくし、皆が住みよい社会を築くために私たちにどのようなことが問われているのか、考えてみましょう。
	インターネットと人権～加害者にも被害者にもならないために～ (2017)	30分	インターネットは私たちの生活を豊かにし、欠かすことのできないものになっています。一方で、インターネットを悪用した人権侵害も数多く発生しています。特にネットいじめや子どもたちをターゲットにした犯罪が大きな社会問題になっています。またインターネットに関する知識や意識が十分でない中学生や高校生は被害者になるだけでなく、意図せず加害者になることも少なくありません。この作品は主に中高生やその保護者、教職員を対象に、インターネットを利用する上での危険性や安全な利用法について、わかりやすく解説しています。
	障害のある人と人権～誰もが住みよい社会をつくるために～(2019)	32分	障害のある人もない人も誰もが住みよい社会をつくるためにはどうしたらよいのでしょうか？ この作品では、障害のある人が直面する人権問題や心のバリアフリーの実現に向けた取組などを紹介し、「障害のある人と人権」について私たちに何ができるのかを考えていきます。 ＜取組紹介＞ ソニー・太陽株式会社 公益財団法人スペシャルオリンピックス日本
	秋桜(コスモス)の咲く日 (2013)	34分	「違い」を認めないことによって、差別は始まるといえます。人はそれぞれ違うものなのに、違うというだけでその人を排除してしまう傾向が人間にはあります。違いを理解し、認め合うことが大切であることはもちろん、本当にすべての人の人権が尊重される社会とは、それぞれの違いを活かすことのできる社会だといえるのではないのでしょうか。 この作品は、「目に見えない違い」の一つとして、発達障がいのある人の生きづらさや痛みを真摯に伝えるとともに、「違い」が生み出すプラスのエネルギーを美しく群生するコスモスの花々と重ね、「ともに生きることの喜び」を伝えるための教材です。

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
人権全般 その他	風の匂い (2016)	34分	「障害者差別解消法」では、「不当な差別的取扱い」を禁止し、「合理的配慮の提供」を求めています。社会の中にあるバリアは物理的な問題だけではなく、障がいのある人への差別意識や知識不足からも生まれています。私たち一人ひとりが意識を変えて、「バリア＝壁」をなくしていかなければならないのです。 この作品の二人の主人公のうち、一人には知的障がいがありますが、子どもの頃は共に遊び、共に学ぶ「大切な友だち」でした。しかし、大人になった二人を隔てる健全者と障がい者という壁。二人の成長と職場での人間模様を通して、社会的な課題でもある『合理的配慮』についても触れています。
	ハンセン病とは？ ～ハンセン病を正しく理解するために～ (2014)	30分	ハンセン病を正しく理解するために兵庫県が製作した普及啓発DVD。ハンセン病についてわかりやすく解説するとともに、兵庫県出身のハンセン病回復者の方のお話を通じて学ぶことができます。
	・ハンセン病問題～過去からの証言、未来への提言 ・家族で考えるハンセン病 (2015)	56分 20分	この教材は、ハンセン病問題に焦点を当て、国や地方公共団体、企業等の人権教育・啓発に携わる職員等が身に付けておくべきハンセン病問題に関する歴史的経緯、当時の社会情勢、問題の本質等について、関係者の貴重な証言や解説等を分かりやすく簡潔にまとめた「ハンセン病問題 ～過去からの証言、未来への提言～」(56分)と一般市民を対象とした、啓発現場においても使用できる「家族で考えるハンセン病」(20分)の2つの映像作品から成り立っています。
	イマジネーション 想う つながる 一歩ふみだす (2014)	34分	あるラジオ番組のスタジオが舞台。パーソナリティーを務めるサヤカの元にはリスナーからの悩み相談が…。いじめ、同和問題、発達障がい、現代社会で悩むさまざまな人々が番組を軸に心を通わせ、明日へとつながる一歩を見つけていくストーリー。ドラマと解説パートを交えて、現代の3つの人権問題を分かりやすく解説していく。 ・いじめをなくすのはアナタ(子どもの人権) ・「関わらないのが一番」それは本当？(同和問題) ・見えにくいから知ってほしい、発達障がいのこと(障がい者の人権)
	あなたの偏見、わたしの差別 ～人権に気づく旅～ (2012)	30分	人権という言葉はよく耳にしますが、自身の問題として考える機会は少ないのではないのでしょうか。しかし、少し視野を広げてみれば、身の回りにはさまざまな人権に関する問題や課題があるのです。 本作では人権問題に興味を持つ若者たち4人に集まってもらいました。彼らが気づき、体験し、感じたことは、まさに人権に向き合うための旅とも言えます。4人の中で深まっていく議論とそれぞれの意見は、人権問題を考えるための確かな手がかりになるはずです。さあ、私たちも人権をめぐる旅に出かけましょう。
	今、地域社会と 職場の人権は！ (2011)	36分	本作品は、「増え続ける高齢者の問題」、「子育てする女性の問題」、「パワ・セク・ハラスメントの問題」、「同和問題」に視点をあて、だれもが地域と職場で、自分の持っている能力や個性を発揮し、生きがいを持って働ける環境づくりの大切さを問いかけていきます。そして、皆が「いきいきと安全で安心できる」社会への取り組みと、共に支え合う「共生社会」の実現をめざす学習教材用作品です。
	人権のヒント 地域編 ～「思い込み」から「思いやり」へ～ (2010)	25分	私たちは、一人ひとりが異なる個を生きています。人種、信条、性別、社会的身分、門地、障がいのある・なし・・・と、人それぞれ違ってきます。ですから相手の立場に立つことはできません。ただ、立てないと自覚して、そこに近づこうと努力することはできます。それが想像力であり、思いを馳せる、思いやりということだと思ふのです。地域のなにげない暮らしの中から、「思いやり」を考えてみませんか。

主なテーマ	タイトル(制作年)	時間	内 容
企業向け	人権のヒント 職場編 ～気づきのためのエピソード集～ (2010)	22分	ごく普通の会社員の日常を描きながら、日頃は気づかない「人権のヒント」を探り、職場の中で私たちが考えるべき人権問題について提起する。「男女の役割」、「セクシャル ハラスメント」、「パワー ハラスメント」、「双方向のコミュニケーションがつくるもの」、「アサーティブな主張」、「障がい者との共生」、「出自で差別」、「ダイバーシティの尊重」などの内容。
	それぞれの立場 それぞれのきもち ～職場のダイバーシティ と人権～ (2011)	32分	年代や経験、価値観の異なる仲間が、それぞれがどのような思いを持っているのかを描き、コミュニケーションの重要性やダイバーシティの考えに沿って、問題解決のヒントを示していきます。①働く女性たち(仕事と家庭の間で)、②上司と部下(思い込みが生むすれ違い)、③こころの健康と周囲の気づき(職場のメンタルヘルス)、④働き方と働きがい(仕事のモチベーション)、⑤仲間への思いやり(相手の気持ちを想像する)、⑥ユニバーサルデザインが教えてくれること(仲間の多様さを知る)
	メンタルヘルスと人権 ～あなたの心の声を聞いていますか～ (2009)	30分	今もどこかの職場で誰かがうつ病に陥っています。あなたの職場は大丈夫ですか？そして、あなた自身は？わたしは大丈夫、と言い切れますか？メンタルヘルス(心の健康)ケアの重要性を気づかせてくれるビデオです。生き活きと働ける職場づくりを実現するためのセルフケアと職場のラインケア、また家族の関わり方を考えます。
	自他尊重のコミュニケーションと職場の人権2 (相手の立場で考える) (2013)	23分	この教材では、職場のそれぞれ異なる立場の登場人物にスポットを当て、お互いを尊重するコミュニケーションの大切さを考えていきます。それぞれのエピソードでは、お互い悪意はないのにコミュニケーションの不全から職場環境が悪化する状況になります。自分も相手も大切にすることをコミュニケーションとはどんなものなのかを考えてみましょう。
	企業活動に人権的視点を ～CSRで会社が変わる・社会が変わる～ (2015)	103分	各地で開催した「企業の社会的責任と人権セミナー」においてCSRと人権課題に積極的に取り組まれている企業に発表いただいた実践事例の中から、企業にとって関心の高いテーマに関する先駆的な5つの事例を取り上げ、企業の経営者や従業員などにおける実施の取組の様子や地域の人々の声を紹介していく。また、専門家による各事例の取組のポイントや、CSRと人権課題に関する解説を加え、企業活動に人権的視点を取り入れることによるメリット等も紹介している。
	コール&レスポンス ～ハラスメント～ (2017)	24分	ハラスメントを防ぐことは人権尊重の上で重要な課題です。しかし、相手の心を知ることはできません。ハラスメントを防ぐためには、十分なコミュニケーションをとると同時に、相手が言いにくい立場にいる場合は、相手の心を十分に推し量り、思いを聞いてみるのが大切です。また、ハラスメントを受けていると感じたら、たとえ小さくとも声をあげ、それを相手に伝えることも大切です。この作品では、職場におけるコミュニケーションの重要性を、「コール&レスポンス」というキーワードに仮託して考えていきます。
	企業と人権 ～職場からつくる 人権尊重社会～ (2017)	40分	近年、長時間労働による過労死、セクハラやパワハラなどのハラスメント、さらには様々な差別に関わる問題などが社会の注目を集めています。こうした「人権問題」への対応は、時として企業の価値に大きく関わります。そのため、人権尊重の考え方を積極的に企業方針に取り入れたり、職場内で人権に関する研修を行う企業も増えてきています。 この作品は、企業向けに実施する研修会等で活用しやすいように、ハラスメント(パワハラ、セクハラ)、LGBT(性的少数者)、障がいのある人、外国人、えせ同和行為などをテーマにドラマや取材、解説も交えて構成しています。
	職場の日常から考える パワーハラスメント (2012)	28分	ある会社で起こる様々な出来事を一本のドラマで描き、多様化する「職場のパワーハラスメント」の問題に切り込んだ作品です。本ドラマでは、暴力や暴言といった従来型のパワハラは取り上げていません。むしろパワハラなのかそうでないのか線引きが難しい事例を中心に描いています。より働きやすい職場をつくるために、働く人がそれぞれの立場から、「職場のパワーハラスメント」をなくすためにどうすればいいのか、学んでいただける内容です。
職場の人権 ～相手のきもちを考える ～ (2010)	27分	社員相談室・新人相談員の佐藤が、様々な職場で起こるトラブルや悩みに遭遇することによって、“相手のきもち”を考えるとどうということなのかを理解していく過程をドラマ仕立てで描く。この作品は、職場で身近に起こり得るパワハラやセクハラ、コミュニケーション不足が原因のトラブルを描くことで、そこにある意識のズレと問題点を提示していく。	